

# 名古屋芸術大学グループ

## 31 April 2015

### 通信

#### Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

- NUA-OB**  
苦難を越えなければみえない景色  
岩船和哉
- NUA-Student**  
人間発達学部 子ども発達学科 4年  
村松明日花
- 大学からのお知らせ  
■名古屋芸大生 夢リポート募金の活動状況

**International exchange Activity** 【国際交流活動】  
海外の芸術師・美術家との交流活動など  
2014年度 プライム大学賞の  
表彰式と祝賀会が行われました

#### News/Topics

ニュース&トピックス

- 音楽学部**  
■第42回卒業演奏会が上演されました  
■大学院音楽研究科  
第17回修了演奏会が行われました  
■第37回オペラ公演  
「不思議の国のアリス」が上演されました  
■「カレイドスコープ2015 Re-ver-th」が  
開催されました  
■名古屋芸術大学オリジナルミュージカル  
「奇跡の少女はオルレアン風に吹かれて…」が  
上演されました
- 人間発達学部**  
■人間発達学部主催  
「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました
- 美術学部・デザイン学部**  
■2014年度 名古屋芸術大学生涯学習  
「織物展」が開催されました  
■「アートクリエイターコース、レビュー」が  
開催されました  
■第42回 名古屋芸術大学卒業制作展  
—作品講評会・卒論発表・映像作品上映会 記念講演会—  
■第19回 大学院美術研究科・デザイン研究科  
修了制作展が行われました
- 名古屋芸大グループ特集**  
■学校法人 名古屋自由学院 滝子幼稚園

**コラムNUA**  
生活に根ざした芸術・文化を求めて  
音楽学部教養部准教授 大田高輝

**Master Artist**  
マスターアーティスト  
人と文化から生まれるかたち  
デザイン学科科長  
教授  
萩原 周

**Information**  
インフォメーション  
■出版  
■2015年度オープンキャンパス日程  
■アート&デザインセンター  
2015年度展覧会スケジュール

制作の最前線

工房を

訪ねて

木工房へ

ようこそ



名古屋芸術大学グループ  
<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部  
美術研究科 美術学部  
デザイン研究科 デザイン学部  
人間発達学研究科 人間発達学部

■名古屋芸術大学保育専門学校  
■名古屋芸術大学附属クリエイト幼稚園  
■滝子幼稚園 ■たきこ幼稚園  
■名古屋音楽学校 (名古屋芸術大学 栄 サテライト)



制作の最前線  
**工房を**  
**訪ねて**  
**②**

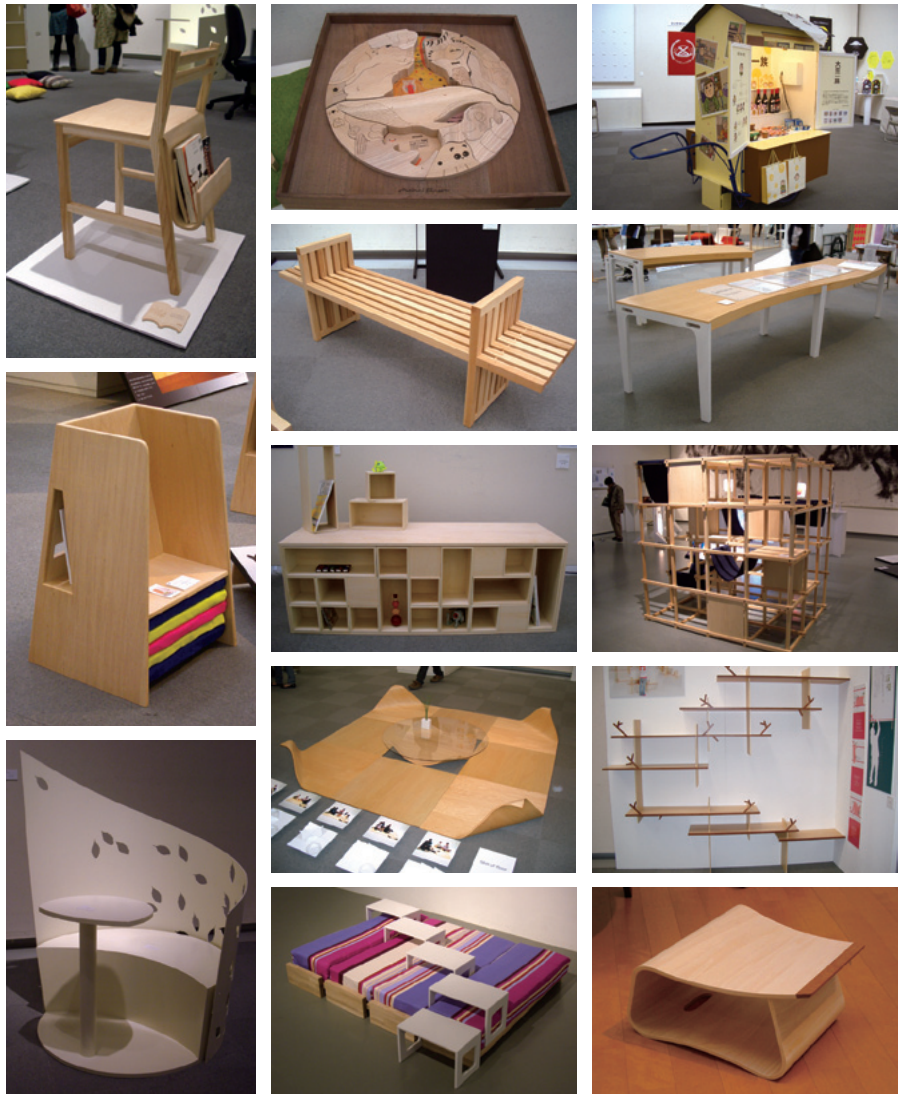
Feature

**木工房へ**  
**ようこそ**

本学には、数々の“充実した工房”があります。工房は、必要なときにいつでも利用でき、制作に没頭できる場所。学生たちにとって、理想的な制作環境です。今回、ご紹介するのは「木工房」。西キャンパスの中の西の端、D棟です。“木”は、立体を作るといえるときにもっとも身近

な素材。家具や雑貨といった作品ばかりでなく、額縁や作品の台座など、作品を展示するときに必要なものを木で作る学生もいます。木工房は、そんなちょっとしたものを作りたい場合にも役立つ工房なのです。





使いやすいが特色  
健康面にも配慮

平田哲生  
デザイン学部 教授

名古屋芸術大学には、ガラスやプラスチック、メタル、写真など、扱う素材やメディアによっていくつか工房があります。木工房は、その名のとおり、木材を扱う工房です。ほかの大学でも同じような工房がありますが、本学の木工房には特色があります。一つ目は、これだけの設備を揃えている工房はそんなにない、ということだと思います。私が赴任した頃、30年前は、工房は今よりも狭く、設備も本当に素朴なものしかありませんでした。

また、木工には、設備と同時に組み立てに使うクランプであるとか手で扱う工具が必要ですが、そうしたものが不足していました。時間はかかりましたが徐々に設備や工具を増やし、7年ほど前に集塵機能も整えました。集塵装置は、天井クレーンがあるため上から集めることができず床にビットを掘って、機械の下側から吸い込む凝った作りとなっています。また、建物もアスベスト対策で建材を変更しました。長い時間工房を利用しない学生にはさほど大きな影響はないのかもしれませんが、作業環境として健康面にも配慮した申し分ないものとなっています。

もう一つの特色としては、たくさんの学生によって使い込まれてきた工房である、ということです。他の大学を見せてもらうと、すばらしい設備があり、工房の室内や空間は非常にきれいなのですが、使われていない、うまく機能していないところが多く見受けられます。加工設備には非常に危険なものもあるので、学生にはあまり使って欲しくないという理由もあるのかもしれませんが、本学の木工

房には、専任の技術員がいて、常に工房全体が整備されています。また、工房を利用するための講習会やルールが設けられていて安全に利用することができます。木工所であれば、利用する人は、経験を積んでうまくいっていき危険も減っていくわけですが、大学の場合は、常に経験のない者たちばかりが作業するということとなります。木を扱う作業場では、当然やってはいけないような常識を学生は何も知りません。木工房では、そんな経験のない学生を技術員が一手に引き受け、指導しながら一緒にものを作っていきます。常に学生たちに注意しながらやっていますので、ときには厳しくやっているように見えることもあります。でも、こうしたことが、工房を使いやすい状態にしてくれているのではないかと思います。

木作業に、危険は付きものです。怪我の危険のあることなので、安全に使うための基本をしっかりと守って利用して欲しいと思います。



### 学生なら誰でも利用できる “共通工房”

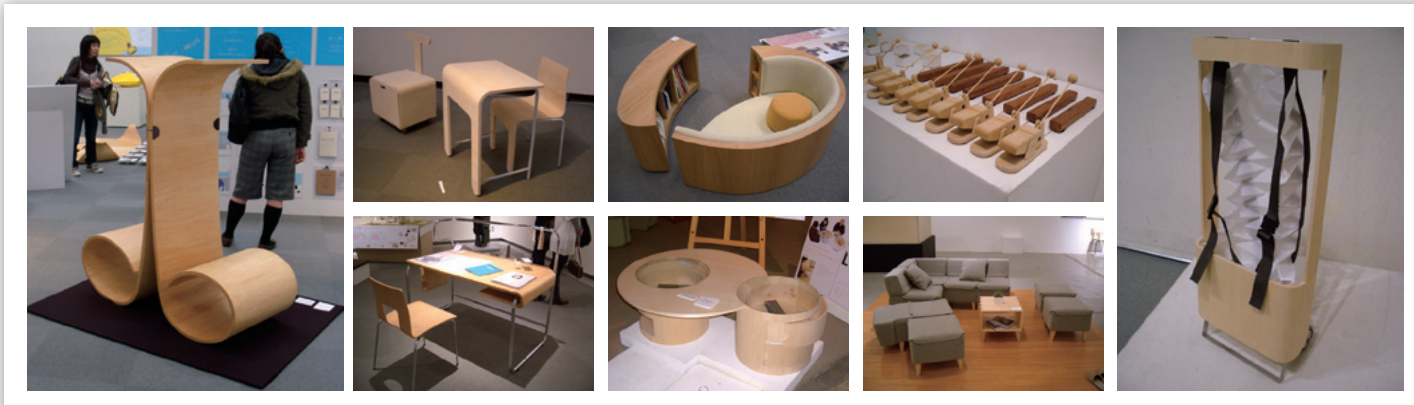
本学には、ガラスや版画、ジュエリーなど、さまざまな工房がありますが、木工房の特徴といえるのが「共通工房」というシステムです。例えば、ガラス工房はガラスの実習を行うコースを選択しなければ利用することはできませんが、共通工房は図書館と同じようにどのコースの学生でも使うことができます。大学としてこのような形式を採っていることはあまりなく、共通工房という制度自体が、本学（木工房）の特徴の一つとなっています。しかし、制度的に自由に使うことができるといっても、危険な設備もあり、実際の利用には一定のルールがあります。そのためにあるのが技術員による講習会です。

### 修了証を提示して 工房を使う



木工房には、工房専門の技術員がおり、設備の使い方や材料の使い方など、技術面、安全面について常に学生をサポートします。この技術員が講師となり、設備の使い方について説明するのが講習会です。木工房を利用したい学生は、この講習会を必ず受講しなければなりません。

講習会は、基本的に、5月の連休明けから約1ヶ月間、開かれます（卒業制作で木工が必要になる4年生のため、特別に11月にも3日間だけ講習会が開かれる）。工房内の設備を危険度に応じてA、B、Cの3種類に分け、3種類の講習を受講しなければすべての機械を扱うことはできません。1ヶ月の間に3種類の講習を一回ずつ、合計3回受講すれば修了です。1度受講すれば学年が上がっても有効で、年度による更新などは不要です。講習を受講するとその証明に修了証が交付され、この修了証を見える位置に提示して工房を利用することになります。修了証は、受講した講習に応じて色分けされていて、扱っても良い設備が技術員に一目でわかるように工夫されています。例年、講習会を受講する学生は80~100名ほど、ほとんどの場合が2年生の学生だそうです。



### 木工房設備一覧



## 女性でも扱いやすい 設備を導入



木工は、材料となる木材を運んだり、機械を使うにしてもしっかりと材料を押さえたりと、基本的には筋力が必要な作業です。力の弱い女性には不向きな作業なのですが、それをできるだけ補うような工夫もされています。設備の選択もその一つ。操作に力が必要な設備は切り替えられ、ボタンで操作できるようなものが設置されています。集塵設備なども改善され、扱いやすくなっています。

## 木工には不向きな加工にも 対応できる!?

技術員の方に何うと、思わぬ悩みも。「学生は、通常、木で作ることを考えないようなものを、木で作りたいと考えてきます。ときには、木工加工の常識から外れた制作方法が必要な場合もありますが、できるだけ知恵を絞って実現できるようにしたいと思っています」 木材加工をよく知らない学生が作品を作るわけですから、

木工の常識から外れた制作をやりたいと思うことが起こります。技術員としては、設備に通常ではない負荷がかかることや安全面から避けたいことなのですが、ジレンマと闘いながらも相談に乗っているとのことでした。また、このような要求にも（あまりに外れたものは、ほかの材料で制作するように指導するとのこと）ある程度応えられる設備が用意されており、これまで制作された作品を見ればわかるとおり、さまざまな加工ができるようになっています。技術員の方にいわせれば、試されているような感覚で、「そうして覚えたことがたくさんあります。どうやって作っていいか考えるのが面白いですね。学生のアイデアを、できるだけそのまま形にするよう心がけています」とのことでした。

## じつは扱いにくい “木”という素材



作品だけでなく展示やパネルなど、急場のときに木材でなんとかしようとするのは自然なことですが、そう簡単にいかないのが“木”と

いう素材なのだそう。「木で簡単にできませんかと、そうやって相談に来るんです。ところが、そうはいきません。木は身近な素材ではありませんが、今の学生たちは木にちゃんと触れたことなんてほとんどありません。考えてみれば、住環境であっても漆喰と木でできた昔ながらの建物に住んでいる人なんて、今ではほとんどいません。“木”という素材は、思うほど身近ではなく、扱いやすいわけでないことを覚えておいて欲しいですね」

## 最大限の注意をはらって 安全に

最後に安全面についてです。木をいとも簡単に切断する鋸やあつという間に削ってしまう鉋など、木工には危険な設備がたくさんあることは、ご承知のとおり。これまでに、不注意や事故で学生が怪我をすることもないわけではありません。「ここ3~4年、事故はないですけども、過去には事故もありました。慣れてきたあたりがこわいのと、学生が、指示した以上のことまで自分でどんどん勝手にやってしまうことがこわいですね」 萎縮してしまうことはありませんが、木工房の利用には、安全に最大限の注意を払い、ルールを守る必要があります。取材時（2月下旬）木工房では、卒業制作に黙々と励む学生の姿が印象的でした。自分の技術と創造と危険性の狭間でものづくりに取り組める場所が、木工房なのだよくわかりました。

木工房から生まれた卒業制作作品



卓上帯鋸盤



手押鉋盤



ボール盤



卓上フライス盤



フラッシュプレス機



パネルソー



ラジアルボール盤



角のみ盤



- 帯鋸盤
- 糸鋸盤
- 軸傾斜盤
- 木工正面旋盤
- スパイラルサンダー
- 各種電動工具
- 各種エアツール

# Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

## NUA-ism



学生時代はスキー一色。大橋先生と縁があり、大橋先生には仲人もしていただいたんですよ。学生時代はスキー部の方でちょっと頑張り過ぎちゃった。



部下として使う人には「適応力」ですね。自分の経験からすれば、企業デザイナーに求められるのは、独創性よりも、既存の商品をみる目とそれを分析して判断する能力が必要だと思います。



デザインの部分でいえば、今思えば学生時代に、あれもこれもやってあげばよかったと思うんですが、先生と話ししたりして、なぜこれはこうなっているのか、どうしてできてきたのか、などの分析ですね。そういうところが今になってみれば参考になっていると思います。今の仕事についてから、例えば街で歩いている人もめてもどんなカバンを持っているかなど、無意識に観察しています。ものを見る目というところを、注意するようになったのは多分大学生の時かだと思います。

### Vol.63 NUA-OB 岩船和哉

(いわふね かずや)  
株式会社ジャパーナ  
ギア統括部  
アウトドア&バッググループ チーフ

1964年 愛知県生まれ  
1988年 美術学部デザイン学科  
スペースデザインコース卒業  
1990年 転職を経て株式会社ジャパーナへ入社



## 苦難を越えなければみえない景色

名古屋市を東西に走る伏見通り。通りに面した建物のうち、もっとも高いのがアルペン丸の内タワーだ。屋上にヘリポートのある独特の形状は、遠く離れた所からもよく見え、名駅の高層ビル群、栄のテレビ塔と並び、伏見・丸の内のランドマークとなっている。今回、お伺いしたのは株式会社ジャパーナにお勤めの岩船氏。ジャパーナは、アルペングループで販売されるPB（プライベートブランド）商品の開発、製造を担っている。企業にお伺いし受付に向かうことは、いつまで経っても慣れないものだ。就職活動ならばなおさらだろう。大企業ともなれば、ちょっとした緊張を強いられるものである。しかし、アルペン本社は、少々、趣が異なるようだ。面談スペースに訪れている他社の方々も応対する方々も、いかにもスポーツ用品を扱っている企業らしく、堅苦しさが少ない。風通しの良さそうな企業風土も何となく感じられる。受付で案内され、現れた岩船さんは、スウェット生地 of 装いがよく似合ういかにもスポーツマン。180cmを優に超える身長とがっしりした体つきだ。「大学時代は、デザイン学科というよりスキー部でしたね(笑)」



車のデザイナーになりたくて本学に入学。しかし、入ってみると「自分ではとても及ばないようなすていやつがたくさんいる」とわかり、勉強よりもスキーにのめり込むようになったという。課題を満足に出せず、先生に叱責されるような学生時代だったそうだ。では、スキー好きが転じて現職に就いたといえ、そうでもないらしい。「じつは前職がありまして、とある住宅メーカーに就職しました。スペースデザインでしたので、その関連でやっていければいいと思っていました。ところが、住宅メーカーというのは、営業が仕事の基盤なんですよ。営業しながら、お客さんを捕ったらそのお客さんに向けてのデザインプレゼンをしなさいと、そういうスタイルです。僕は営業の成績が良くなって、仕事に馴染めずにいました」仕事に悩むうち、たまたまアルペンの店舗でアルバ



イトをしていた親類からスキーのチューンナップスタッフの求人があると聞き、デザインの仕事からも離れるつもりで面接を受けようと決心した。しかし、面接に行くと思わぬ方向へ話は進む。「面接官が『君、デザイン学科の卒業だよ』と聞くんです。『ゴルフバッグのデザイナーが足りないんだけど、1週間後に絵を描いて持ってきて』といわれたんですよ」腑に落ちないながらも、与えられた課題をこなすため、販売店に出向きゴルフバッグの実物を確認、ゴルフをやっている兄や知り合いに、機能性やどういうものが有効なのかを聞き取りした。そして、自分なりに現行のゴルフバッグの問題点を抽出し、提案を織り込んで絵にした。1週間後、再び面接官に会いに行き提出すると『デザイナーとして採用します』ということになった。「もうやるつもりはなかったんですが、なぜかデザイナーになってしまいました」縁とは不思議なものである。



ただし、本当の苦労はそれからである。「採用されて配属先に行くと、バッグのデザイナーは誰もいないんです。前任の方が本当にちょうど辞められたところで、業務が止まっていた。そんな状態なので『すぐにやってください』といわれました。でも、何をやっていいかわからない(笑)。面接で、ゴルフバッグの絵を一枚描いただけですから。『どうすればいいんですか』と周りの人に聞いてみるものの『ここに、これまでの資料がある

ゴルフバッグをはじめ、アルペングループで販売されるバッグ、OEM生産する別ブランドのバッグなど手分け、自分でも「数百? もう数はわからないですね」というほど。世界最軽量のゴルフバッグや、独自の機能と形状で特許を取得した製品もある。



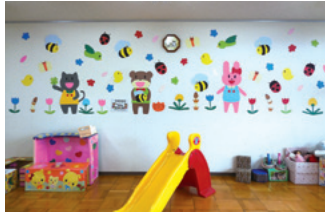
ので、これをみながらやってください』だけです」当時、ゴルフバッグの担当者は、バイヤー1人、デザイナー1人の2人だけ。たった2人ですべてのバッグを作り出していた。「みようみまねで何とか始めたんですが、今思えば結果としてこれが長続きした理由になったのかも知れないですね」連日、1人会社に残り夜更けまで仕事に励んだ。「産みの苦しみは大きいですけど、最初にサンプルが上がってきたときの感動は今でも忘れません。店舗に商品として並んで、さらに実際にお客様が使っているところを見ると『おお、それ、俺が作ったんだよ!』という感じのすていうれしさがあります(笑)」形になっていくプロセスを経験し、仕事の面白さを実感した。

デザインだけでなく、型紙を実際に作り縫製まで自分でこなせるようになり、工場のラインを作る仕事にも取り組んだ。その経験を基に、現在はアルペングループ全体のバッグの生産管理を統括する業務に就いている。若い人たちに望むことを伺えば「ラクしちゃうんですね。何事にも最後までやり遂げるといった気持ちを持って取り組んでもらえれば、あとで絶対に生きてくると思います。すぐあきらめないとか、そういうことが大事だと思います。たとえ理不尽なことがあったとしても、苦労したことが自分の身になるということをお忘れなく。苦しいトレーニングがあつてこそ、結果がある。スポーツマンらしい言葉に納得。

## 勉強も、サークルも、元気いっぱい



Vol.64  
**NUA-Student**  
**村松明日花**  
(むらまつ あすか)  
人間発達学部  
子ども発達学科 4年

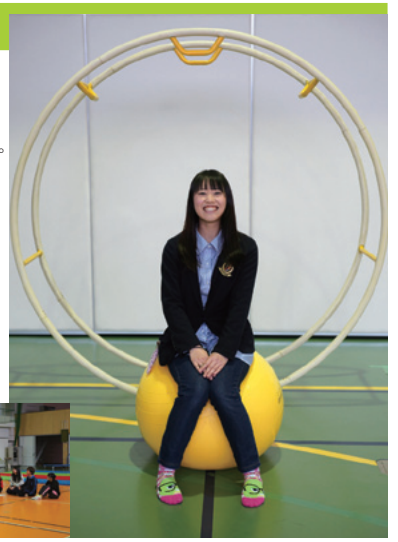


サークルの自由工房では、依頼を受けて壁の飾り付けなどを実施している(写真は豊山町ファミリー・サポート・センター)。ボランティアで、夏祭りの準備やワークショップ、読み聞かせなども行っている。



手作りのラートの模型。これがあれば面接や自己紹介で便利。

全日本学生ラート選手権出場の妙技! 昨年は、大会実行委員として活躍。リズム体操部では、年に一度、クリエ幼稚園の子どもたちにラート体験会も実施している。



「健康のための体操発表会」Gボール演技  
ラート集団演技  
芸大祭前日練習

リズム体操部のみんなでポーズ。チームワーク抜群で集団演技も期待できそう。

### 人間発達だとやっぱり資格。保育士? 先生?

小学校の先生を希望しています。一応、希望は小学校なんですけど、幼保も取りたいので3つとも取得を目指して勉強しています。私、静岡県出身なのですが、県内には3つの免許が取れる学校がなくて、それで名古屋芸術大学を選びました。小学生の時から、大人になったら学校の先生になりたいという希望がありました。それが、高校の時の職場体験で保育園に行かせていただき、保育園も楽しくて幼保もやってみたいと考えるようになりました。いろんな職場をみられると思い、3つとも取得しよう勉強しています。

### 子どもが好きなんだね。

5人兄弟の長女なんです。下4人は、皆男の子。一番下の弟が、小学校を卒業したばかりで、かわ

いんですよ。兄弟は、みんな仲良く、実家にいる時は、弟の勉強なんかもみていました。今も夏休や春休みなど、実家に帰ると、両親からも弟たちからもすごく喜ばれます(笑)。

### さて、ラート? というスポーツで全国大会出場って聞いたんだけど、まず、ラートってどんなスポーツなの?

今日、説明にいくかなと思って、自分で作った模型を持って来たんです(ガソゴソと鞆から模型を取り出す)。夏休みに針金で作りました。リズム体操部というサークルと、自由工房というサークルの2つに入っているんですが、リズム体操部で、今、ラートを推してるんです。跳躍、直転、斜転という3種目があって、体操競技のように美しさを競います。動画サイトにアップされてるんでみてもうとわかるんですが、中に入って回転するのが基本で、だんだん難しい技に発展していきます。今年の全日本大会から、チームごとに演技をつくる集団演技が始まり、ちょうどいま部員たちが集団の練習を始めたところです。4月の新入生歓迎会の時に、初めてラートの演技をみまして、やってみたいと思いました。その時には自由工房に入部していたのですが、自由工房にリズム体操部と兼部していらっしゃる先輩がいて、その先輩にお話を伺い私も始めました。

### それで全国大会まで?

じつはラートをやっている大学が、名古屋には中京大学と名芸の2つだけで、リズム体操部に入部すると、すぐに夏には全日本大会へ、スツと行けるんです(笑)。学生大会は夏ですが、12月に大学を卒業してからも出られる一般の大会

がありまして、そこから日本代表メンバーが選出されて、世界大会に出場できるんですよ。今年の一年生は世界大会を目指して頑張っています。日本代表というすごいですが、ラートには5級から1級までの級があり、3級以上になれば、誰でもその大会に出場できるんですよ。

### 高校時代に体操とかやってたんじゃないの?

やってないです。小学校の時はバレーボールをやってたんですか、中高は茶道部でした(笑)。ぜひ、やってみてください。すぐに全国大会に出られますよ!!

### もう一つの自由工房の活動は?

ボランティアをさせていただくことが多いです。豊山町のファミリー・サポート・センターという施設と大学のここにワークショップの壁面の飾り付けを季節ごとにやっています。週1回の活動ですが、夏休みにはボランティアでワークショップをやったりして、前期は忙しいですね。3年生の時には部長を務めました。引き継ぎも済んだので、これからは後輩のサポートをやっていこうと思っています。

### 勉強とサークル、忙しそうだね。

4年になったのでこれからは、教員採用試験に向けて勉強ですね。一次試験は、愛知県と静岡県で試験日が違うので両方受けられますが、過去問をみると傾向がかなり違うのでどうしようかと悩めます。今月から北名古屋市の小学校で学習チューターをやっていて、北名古屋もいいなと、迷っちゃいます。静岡の実習校の先生にも「戻ってきてよ」といわれているし……。

### みんな、こっちにおいでっていうでしょ。なんか元気もらえそうもん(笑)。

### 村松さんに聞きました。

**大学は忙しい?**

7:30 起床

9:00 授業

12:00 昼食

16:30 サークル

21:00 帰宅

24:00 就寝

テレビをみながらゆっくりと支度、お昼のためのお弁当作りも

支度が終わる次就寝

授業が終わったらサークル活動(リズム体操部が火・木・土/自由工房が水)。4年になってからは、学校に残って勉強

家事や課題・次の日の準備など、週末にあとめて家事をかたつけることも

大学からのお知らせ  
名古屋芸大生  
夢サポート募金の活動状況

本学は、「学生のために」という視点を重要視し、「名古屋芸大

生夢サポート募金」を2013年（平成25年）4月から開始、同年6月から専用のホームページを開設いたしました。それに伴い、平成25年度に引き続き、平成26年度においてもご賛同と募金のご支援

を依頼しましたところ、ご支援をいただきましたので、その状況を次のとおりお知らせします。

本募金は、学生一人ひとりが持つ夢とその可能性を引き出し、多様な社会環境の中で自信と誇りを

持って、志高く社会で活躍できることを願い、6項目の中から用途を指定して寄附をすることができる募金制度です。今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 1) 募集期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日  
2) 期間合計寄附金額 406,000円  
3) 寄附金の使途別状況（平成27年3月31日現在）

寄附金の使途	平成26年度寄附金額	前年積立金額	使用金額	使用方法等
1 学生に対する奨学金	165,000	105,000	270,000	昨年同様、保護者の急変により学費支弁を継続することが極めて困難になった学生の修学を支援する「緊急奨学金」の一部として使用させていただきました。
2 音楽活動支援事業	55,000	145,000	0	
3 制作活動支援事業	50,000	210,000	110,000	3の制作活動支援事業については、デザイン学部（学生10名を含む）のプロジェクトチームによる活動の一部に使用させていただきました。
4 子ども教育活動支援事業	51,000	120,000	0	※2～5の寄附金の使途における残金は、平成27年度以降に各使途別の事業への使用を十分検討の上、活用させていただきます。
5 キャリア支援事業	50,000	270,000	0	
6 その他、学生支援の充実を図る事業	35,000	0	35,000	全学共通教育科目履修等のために、学生のキャンパス間移動を円滑にすることを目的とした「東西キャンパス連絡バス」の運行に係る費用の一部として使用させていただきました。
合計	406,000	850,000	415,000	

- 4) 募金対象別状況 (単位:円)

募金対象	寄附金額
1 卒業生	6,000
2 教職員・役員 (退職者含む)	360,000
3 その他賛同する個人・法人・団体	40,000
合計	406,000

- 6) 名古屋芸大生夢サポート募金について

名古屋芸大生夢サポート募金の詳細はホームページをご覧ください。

URL:

<http://www.nua.ac.jp/yumesupport/>

- 5) 寄附者について

平成26年度にご寄附をいただいた方々は7名、1法人です。

○寄附者氏名の公表

<個人> (※50音順 敬称略)

川村大介、久野真一、田上義弘、

竹本義明、平野春吉、山口加代子、

山田佳歩

<法人>

一般社団法人あおぞら



※Webで検索 **夢サポート募金**

International exchange  
Activity  
【国際交流活動】  
海外の学術姉妹提携校との  
交流活動など

2014年度  
ブライトン大学賞の  
表彰式と祝賀会が  
行われました

2014年度ブライトン大学賞の入賞者が決定され、その表彰式と祝賀会が3月6日(金)、名古屋市中区栄4丁目の名古屋東急ホテルで行われました。グランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名と佳作6名の合計10名の優秀者が表彰されました。

「ブライトン大学賞」は、本学と姉妹校提携を結んでいる英国のブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年、相互の交流を深めています。

本年度は、ブライトン大学からMs.Helen Kennedy (美術・デザイン・メディア副学部長)とProf. Matthew Cornford (美術・デザイン・メディア学部主任講師)が来日され、卒業制作展の行われた3会場(本学西キャンパス、名古屋市民ギャラリー矢田、愛知県美術館ギャラリー)を廻って作品を審査し、受賞者が決定されました。

表彰式では、国際交流センター

長の水内智英が開式の言葉を述べ、竹本義明学長から歓迎の挨拶がありました。続いて、Ms. Helen Kennedy 副学部長から、来日してからの歓迎やおもてなしに対するお礼の言葉と、本学学生の作品のクオリティーの高さに感激したこと、すべての作品が甲乙つけがたく、受賞作品10名を選考するのに苦労したこと等のスピーチがありました。その後、各賞の発表と入賞した作品についての講評が行われ、両氏から、受賞者一人ひとりに賞金と表彰状が手渡されました。グランプリを受賞した田中智子さん(デザインマネジメントコース)の「これも家族」に対しては、「十分にサーチされ、独創的、そして対話的な家族の概念を探る問いかけをする作品でした。」また、優秀賞を受賞した光内惟奈さん(アートクリエイターコース)の「彼岸と此岸」については、「シンプルで、洗練されており、そして美しく演じられた驚くべき、不可思議なパフォーマンスでした。」との講評がありました。以下、奨励賞2名と佳作6名の受賞者全員に講評及び表彰状と賞金が授与され、表彰式は予定どおり終了しました。

その後、名古屋芸術大学後援会会長の挨拶と乾杯で祝賀会が行われました。2014年度の受賞者は右記の方々です。

- 1 来訪の挨拶及び講評をするMs.Helen Kennedy (左)、Prof. Matthew Cornford (右)  
2 グランプリに選ばれた田中智子さん(デザインマネジメントコース)  
3 今回受賞した10名の学生



グランプリ



デザインマネジメントコース  
田中智子さん  
「これも家族」

優秀賞



アートクリエイターコース  
光内惟奈さん  
「彼岸と此岸」

奨励賞



スペースデザインコース  
川田文香さん  
「木25～木が教えてくれること～」

アートクリエイターコース  
金山結華さん  
「カドクワ アトリエギャラリー カナヤマ」

佳作



デザインマネジメントコース  
宇留野悠加さん  
「手書きしるべ～あなたの文字ができるまで～」



テキスタイルデザインコース  
寺島佑紀さん  
「Colors of my life 1993-2015」



インダストリアルデザインコース  
澤邊美駒さん  
「きらきら・りんりん・ころころ」



日本画コース  
工藤帆帆さん  
「モチノキ」



立体造形コース  
阪口和希さん  
「想起のためのインスタレーション」



陶芸コース  
浅井和真さん  
「境界の川」



# News & ニュース&トピックス

## Topics

### 音楽学部

#### 第42回卒業演奏会が 上演されました

2015年3月13日(金)、三井住友海上しらかわホール(名古屋市・伏見)で本学音楽学部の第42回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとって大学4年間に学んだ成果発表の場であるとともに、幼少期からの集

大成の場だといえます。音楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会です。本年度は、卒業試験で優秀な成績を取った学生18名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台上に臨みました。

プログラムは、3部構成で、序盤の第1部は電子オルガンからスタートして、ピアノ、ソプラノ独唱、フルートと続き、6名が出演しました。第2部では、作品発表からピアノ、ソプラノ独唱、チェロ、ユーフォニアムなど6名が出演。3部では、ソプラノ独唱からピアノ、フルートと続き、最後のクラリネットまでの6名が出演しました。

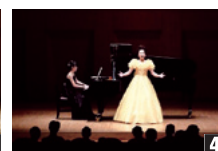
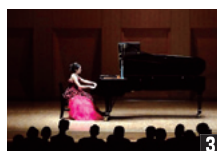
指導教員をはじめ、家族や友人

らが客席から見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。

一人ひとりが、独奏や独唱を終えるごとに、会場から惜しめない拍手が送られました。



1 2 3 演奏の様子  
4 5 歌唱の様子



### 大学院音楽研究科

#### 第17回修了演奏会が 行われました

2015年3月4日(木)と5日(金)の両日、本学大学院音楽研究科の第17回修了演奏会が、名古屋市伏見の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

大学院修了演奏会は、学部卒業までの教育に加え、より専門性の高い能力、知識を持って研究し、能動的に自ら進んでテーマに取り組んだ成果の発表の場です。演奏形態は、今春修士課程を修了する院生がオーケストラ/コレギウム・アカデミカと共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが織りなす色彩豊かな演奏が特色となっ

ています。

コレギウム・アカデミカは本学大学院の演奏研究グループで、大学院音楽研究科、大学音楽学部に所属する教員・卒業生を中心に組織されたオーケストラです。濱津清仁氏(2004年ウィーン学友協会黄金ホールにて、オーストリア・ウィーン放送交響楽団を指揮し、鮮烈な楽壇デビューを飾り、将来を期待されている逸材として国内外で多くの交響楽団を指揮。現在は、後進の指導にも力を注いでいる)がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソプラノ・バス独唱、電子オルガン・マリンバ・フルート・ピアノ・クラリネット独奏など各研究領域における熱演が繰り広げられました。

プロの歌手や演奏家に引けを取らないすばらしい歌唱力や堂々とした演奏に、客席を埋めた聴衆が

惜しめない拍手が送られていました。



1 ソプラノ独唱  
2 電子オルガンの演奏  
3 ピアノ演奏  
4 フルートの演奏  
5 バス独唱



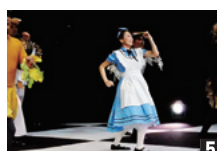
### 音楽学部

#### 第37回オペラ公演 「不思議の国のアリス」が 上演されました

2015年2月27日(金)と28日(土)の両日にわたり、名古屋市千種文化小劇場(名古屋市・吹上)で、第37回名古屋芸術大学オペラ公演が行われました。演目はルイス・キャロル作の童話として広く知られる「不思議の国のアリス」。今回上演されたのは、そのルイス・キャロルの原作をもとに、作曲家の木下牧子さんが2003年に発表したオペラ作品。総監督・演出は本学教授の澤脇達晴が、指揮は山田正丈が担当し、会場の円形ステージを活かしたユニークな舞台演出も見どころのひとつとして話題を呼びました。

舞台は、少女アリスが読書に夢中の姉と広場で過ごしていると、

慌てた様子の白うさぎを見かけ、後を追ううちに不思議な世界へと迷い込んでしまうところからスタート。第一幕では、笑い猫やドードー鳥、公爵夫人、帽子屋など、「不思議の国のアリス」に登場する、ユニークで個性的人や動物たちとの出会いが描かれます。第二幕では、野蛮なハートの女王のクロッカー大会やおかしな裁判などが繰り広げられ、最後は全員が狂ったように騒然となった瞬間、アリスのまわりから誰もいなくなってしまいます。ふと気がつくと、アリスは姉といた広場に戻り、今までの出来事はすべて夢だったことに気づきます。姉はそんなアリスに純粋な気持ちのまま大人に成長してほしいと願うところで、この舞台の幕が下ります。演者たちの熱のこもった演技と歌声に、満席の客席から惜しめない拍手が送られました。



1 退屈そうにするアリスと本に夢中の姉  
2 白うさぎとアリス  
3 不思議の国へと迷い込んだアリス  
4 笑い猫とアリス  
5 ドードー鳥たちとぐるぐる競争をするアリス  
6 公爵夫人とアリス  
7 観客席の様子

今回のオペラ公演は、本学教員が音楽指導と振付を行い、オーケストラは演奏学科弦管打コースの学生が担当し、さらに、音楽研究科の大学院生やミュージカルコースの学生の協力により作り上げられています。まさに音楽学部を力上げた本年度最後の舞台に相応しいステージとなりました。総監督・演出の澤脇は、本公演につ

いて公演プログラムで次のようにコメントしています。

「この作品は、アリスが夢の中で起こった奇想天外な出来事を、どのようにして乗り越えて行くかというお話です。しゃべる動物や花、変わったお茶会、奇妙なクローカー大会、いつも“首をはねよ!”と叫ぶ女王など、夢の中で次々とおかしなことが起こります。

(中略) 初めてご覧になれる方は、このオペラはいったい何だろうと思われることでしょう。その時、これは夢の中の出来事で、その中に一緒にいると想像を逞(たくま)しくしてご覧いただきたいと思います。(中略) 私たちの社会でも不確かなことが山のようにあり、思いもかけないことが、たびたび起こります。いいことなら

ラッキーなのですが、大抵はアンラッキーというのが世の常です。アリスは子どもながらその困難を乗り越えて行きます。これは、童話というよりアリスのように勇気をもって立ち向かってほしいという、今に生きる学生諸君への応援ドラマなのかもしれません。」

音楽学部

「カレイドスコープ2015 Re-ver-th」が開催されました

「カレイドスコープ」は音楽学部サウンド・メディアコースの学生が主体となり、企画・運営を行う新たなアートを追求するコンサートです。その「カレイドスコープ2015」が2015年2月22日(日)、本学東キャンパス3号館ホールで開催されました。

このコンサートでは、これまでの音楽を見つめ直し、これからの音楽を模索する“逆行と再生”という二つの意味を込めた「Re-ver-th」をテーマに演奏が行われました。

数々のオペラ公演に携わる高橋裕之氏を指揮者に迎えたこのコンサートでは、学生が作曲した作品をプロのオーケストラ奏者が演奏。さらに、演奏中にはデザイン学部メディアデザインコースの学生が制作した映像も曲に合わせて上映されました。

それぞれの専門分野の知識やア

イデアを活かし、映像と音楽を見事に融合させたコンサートに、訪れた来場者から惜しめない拍手が送られました。

【カレイドスコープ2015 Re-ver-th演奏プログラム】

- 1 曲目「逃走」  
(作曲:水鳥亜美)
- 2 曲目「Fantasy Travel」  
(作曲:松岡弘規/映像:浦野優花)
- 3 曲目「Zugvögel」  
(作曲:野田輝/映像:梁月)
- 4 曲目「踊」  
(作曲:角谷美咲)
- 5 曲目「奏-kanade-」  
(作曲:森川志帆)
- 6 曲目「Intervene」  
(作曲:大塚菜月)
- 7 曲目「フィルムと自分と…」  
(作曲:杉山志帆/映像:松田亜里紗、森田将義、渡邊真衣)
- 8 曲目「Funny Irish with Friend」  
(作曲:近藤一輝)
- 9 曲目「Euphoria」  
(作曲:寺西優介)
- 10 曲目「四季 降散舞」  
(作曲:村上達彦)
- 11 曲目「Light of Hope」  
(作曲:入江帆波)
- 12 曲目「unpredictable」  
(作曲:豊島志穂/映像:松田亜里紗、森田将義、渡邊真衣)
- 13 曲目「雅懐」  
(作曲:高橋大介/映像:内藤美沙)
- 14 曲目「Roam」  
(作曲:磯村輝昭)



1 2 曲目「Fantasy Travel」  
2 3 曲目「Zugvögel」  
3 7 曲目「フィルムと自分と…」  
4 12 曲目「unpredictable」  
5 13 曲目「雅懐」  
6 指揮 高橋裕之氏(中央)  
7 サウンド・メディアコース学生による舞台挨拶の様子

音楽学部

名古屋芸術大学 オリジナルミュージカル 「奇跡の少女はオルレアンの風に乗って…」が上演されました

2014年3月12日(木)、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで、音楽学部が主催するミュージカルが上演されました。

演目は「奇跡の少女はオルレアンの風に乗って…」で、あらすじは、「もしも、フランスを救った奇跡の少女ジャンヌ・ダルクがあなたの目の前に現れたら? その時、あなたがとても困っていて、誰かが救ってくれないかと願っていたら? 舞台はある時代のあの場所。

自由を求める若者たちの前に、ジャンヌらしき少女が現れる。



自分たちを救ってくれる奇跡の少女を待ち望んでいた若者たちの目が輝く。

この少女は本当にジャンヌなのだろうか? いや、それはどうでもいい。

この少女をジャンヌに仕立て上げればいいのか。

ジャンヌに仕立て上げられた少女は、若者たちの為に戦いを始め



る。  
そして、ある奇跡が…。  
躍動するスウィングジャズのリズムに乗って描かれる奇跡の少女の物語、Swing! Jeanne, Swing!』というものでした。この不思議な物語の演出・脚本を手がけたのは、本学ミュージカルコース教授の森

泉博行です。森泉氏はブロードウェイ作品の演出、シェイクスピア作品のミュージカル化など、多くの創作ミュージカルの作・演出を担当。さらには、東宝、松竹、ジャニーズなどのステージを手がけています。このミュージカルでは、作曲、振付、演奏のすべてを、

名古屋芸術大学の教員や学生たちが担当しています。ミュージカルコース4年生の卒業公演でもあるこのステージを、最高の舞台にしようと、出演キャストをはじめ、舞台スタッフ、演奏を務めた竹内雅一教授率いる名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの面々も全

力で臨みました。  
カーテンコールでは、ミュージカルコース4年生がステージに立ち、名古屋芸大生としての最後の歌とダンスを披露しました。会場を埋め尽くした観客からは、大きな拍手が出演者やスタッフに送られていました。

人間発達学部

人間発達学部主催  
「春を呼ぶ  
芸術フェスティバル」が  
開催されました

2015年2月14日(土)、人間発達学部主催による恒例の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました。

このフェスティバルは、人間発達学部をこの春卒業する4年生と退任される先生方を送り、4月から入学する高校生を歓迎するとともに、地域の子どもたちを楽しんでいただくことを目的として、毎年、年度末のこの時期に開催されています。

演出は学生実行委員の企画運営によるもので、子どもたちに芸術文化の楽しさを伝えるとともに、一緒に楽しめるように、学生たちが日ごろから授業やサークル、また、個人で研鑽を積んできた成果を発表する場となっています。

プログラムの前半は、合唱や独唱、ピアノ演奏、絵本の読み聞かせなど。後半は、サークル活動の成果として、吹奏楽部、リズム体操部、ダンス部、和太鼓部などの演奏が行われました。

熱演する学生や教員に会場から大きな拍手が送られていました。

今回の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」では、スペシャルゲストとして、世界屈指のオルガン奏者にしてサウンド技術者であるド

ン・ルイスさんが、演奏を披露してくれました。

最初に、ドンさんのプロフィールの紹介があり、音楽に関するさまざまな分野で多大な功績があることに会場からは感嘆の声が上がりました。

その後、パイプオルガンの演奏がありました。ペダル・ワーク(足さばき)が電子オルガン同様、素晴らしく後ろから見入った人も多数いました。

次はピアノで独演。ジャズ風の素晴らしいアレンジで、終了後、本学の音楽学部で鍵盤楽器を教える専任教員が「ブラボー!!」と思わず大きな声を上げるほどでした。

その後、人間発達学部生で急遽編成された合唱隊がピアノの周囲に並び、かつて農場で過酷な労働をさせられた黒人奴隷による労働歌をパフォーマンス付きで歌いました。ドンさんはソロ部分を高らかに歌い上げ、設置されているマイクが要らないほどでした。

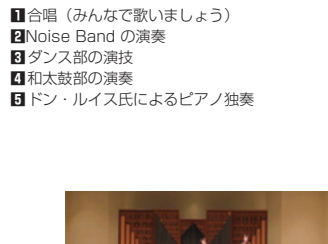
そして最後はどんな悪い時(天候)が続いても、いつかは良いことがある(天気になる)という明るい歌を学生たちが大きな声で合唱し、ステージを盛り上げました。

たった一度、1時間程度のレッスンでここまで音楽を専門としない学生をまとめる力に、教師としてのドンさんの素晴らしさを実感させられました。ドンさんはスタンフォード大学等で黒人霊歌の歴史や、シンセサイザー開発等のサ

ウンド技術など幅広い分野で教鞭を取られていますが、合唱の指導力にも敬服されました。

フェスティバル終了後、感謝の

気持ちとしての花束贈呈や、学生たちとの記念撮影なども行われました。



1 合唱(みんなで歌いましょう)  
2 Noise Band の演奏  
3 ダンス部の演技  
4 和太鼓部の演奏  
5 ドン・ルイス氏によるピアノ独奏

ドン・ルイス氏略歴



マイケル・ジャクソン、クインシー・ジョーンズ等ともコラボ。ドンさんの曲はオバマ大統領のキャンペーンソングにも使用されました。一昨年のグラミー賞受賞者であるMIDI規格普及に努められた梯都太郎氏(ローランド創業者)とは、MIDI規格、シンセサイザー技術開発でも協力し、今でも親密です。学生時代、ノーベル平和賞受賞者であるキング牧師に依頼され、公民権運動で演奏もしています。



美術学部 デザイン学部

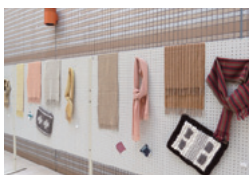
2014年度  
名古屋芸術大学生涯学習  
「織物展」が開催されました

2014年度名古屋芸術大学生涯学習「織物展」が、本年2月4日(木)から8日(日)まで、愛知県北名古屋市文化勤労会館で開催されました。

この展示会は、2014年後期に行われた第25回生涯学習大学公開講座のうち、「織りの表情を楽しむーリジット機を使ってー」の講座の受講生が制作した作品を、

展示公開したものです。

文化勤労会館1階エントランスホールに、卓上機で制作したウールの座布団やマフラー、麻の小物など、時間をかけて織られた、ぬくもりのある手織りの作品たちが展示されていました。会場に訪れた人たちが熱心に覗き込んでいる姿が見られました。



美術学部

「アートクリエイターコース、レヴェュー」が開催されました

美術学部のアートクリエイターコースのレヴェュー展が、2015年2月3日(火)から8日(日)まで名古屋市市民ギャラリー矢田で開催されました。

この展覧会は、1年生から3年生までの全ての学生が、日ごろの制作から選抜した作品を展示披露するものです。

アートクリエイターコースでは、3年生はアートクリエイターコースとしてまとまったコース運営をしており、2年生は「コミュニケーションアートクラス」「版画・平面クラス」「彫刻クラス」「陶芸・ガラスクラス」「美術文化クラ

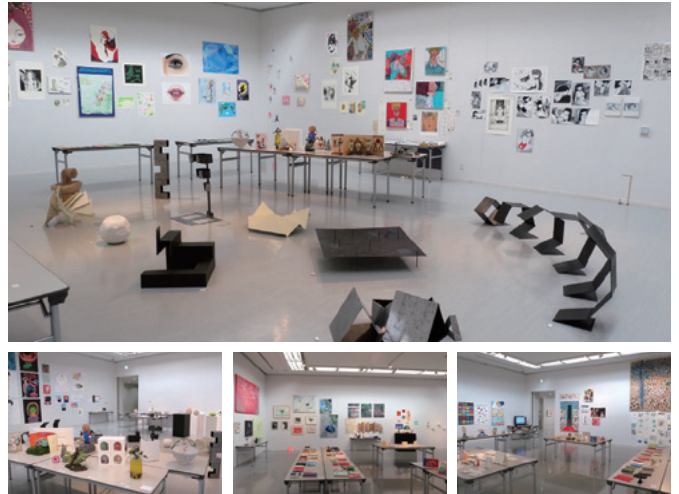
ス」の5つの専攻に分かれてそれぞれの専門を学び、1年生は2年次より専攻する5つのクラスの基礎を学ぶファンデーション科目を受講しています。

会場には、4階の第一展示室に1年生34名、3階の第三展示室に2年生31名、第二展示室に3年生13名の作品が展示され、コースを担当する教員や実技補助員、大学院ティーチングアシスタントの作品も展示されていました。

また、作品に加えて、クリエイター研究の授業で行った「OHOC《One Hundred & One Creators》」(オーホック：在学4年間で100名のクリエイターに出会い、卒業時には自分が101番目のクリエイターになることを自覚するための講座)の個々のユニークなレポー

トファイルも展示されていました。アートクリエイターコースが目指す「モノづくりの現場を活性化させることのできる様々なクリエイ

ターの育成」。それに応える学生たちの発想力、表現力豊かな作品が展示された見ごたえのある展覧会でした。



美術学部

デザイン学部

第42回 名古屋芸術大学卒業制作展 作品講評会・卒論発表・映像作品上映会・記念講演会

第42回目を迎えた名古屋芸術大学卒業制作展は、3月3日(火)～3月8日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で開催されました。

初日の3日には愛知県美術館8階のギャラリーホールで、オープニング式が開催され、美術・デザイン両学部を代表した学生による作品の解説やテープカットなどが行われました。期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストの作家による作品の講評会が実施され、卒展作品をプレゼンテーションした学生に対して、ゲストや担当教員から様々な批評やアドバイスを送られました。また、期間中、愛知芸術文化センター 8階ロビーでは、展示されている全

コースの映像作品上映会が実施されました。アニメーション、ドキュメンタリー、CG映像、実写映像の4分野で、上映時間は90分、一日5回ずつ上映されました。3月6日(金)には、美術文化コースの優秀卒業論文発表会が愛知芸術文化セン

ター12階のアートスペースで行われました。また、毎年開催されている記念講演会は、本年度は、デザイン活動家・D&DEPARTMENTディレクターのナガオカケンメイ氏による公演で、演題は「デザインしないデザイナー-ナガオカケン

メイの一生-」でした。卒業制作展とその関連イベントには、本学関係者はもちろん、一般の来場者を含めて大勢の方々が訪れ、学生たちの思いを込めた作品を鑑賞していました。

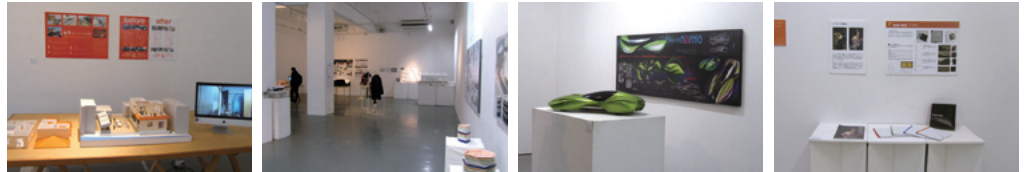
愛知県美術館ギャラリー



名古屋市民ギャラリー矢田



本学西キャンパス (ASDセンター)



Column NUA No.28

生活に根ざした芸術・文化を求めて

音楽学部教養部会准教授 大田高輝

大学生のころ、わたしは日本の民衆の舞踊や和太鼓に取り組む学生サークルで活動していました。民族舞踊や和太鼓を練習し、地域の活動の応援のために民舞・和太鼓を披露したり、年に2回の自主公演を作り上げて舞台化したりしていました。活動の中では、みんなで声をあわせて歌ったり、舞台装置やチラシ、立て看板などを描いたり、詩集や絵本をはじめ様々な文献を読みあさったりし

ていました。活動そのものが、「生活に根ざした」ものだったのです。歌うことは生活であり、描くことは生活であり、読むことは生活でした。

大学生活4年の時に、わたしは社会科・日本史の担当として教育実習に行きました。わたしが担当に入ったクラスの朝のS・Tは、お世辞にも良い雰囲気とは言えず、遅刻者が続出している状態でした。そこでわたしは担任の先生にお願いして、朝のS・Tの時間を任せていただき、高校3年生たちに「大学ではこんな歌を歌っています」と、プリントを配って歌を紹介しました。遅刻者を減らしていくには、取り締まりを強化するのではな

く、「楽しい」時間があるから遅刻はしない、という雰囲気づくりが肝要と感受したからです。その中の1曲で♪光れ君の眼♪という曲は特別に「歌唱指導」をし、みなさんに覚えてもらいました。最終日には、「いつのまにか遅刻者がいなくなった」という意見や、「悲しくなった時は、公園で自転車に乗りながら、『光れ君の眼』をおもいきり歌っちゃいます」という色紙の一言など、嬉しいメッセージをいただきました。学校生活の中のはほんの数分の「歌」という芸術・文化がもたらした変化です。

大学院生時代には、今は無くされた名古屋市中

第19回  
修了制作展が行われました

本学大学院美術研究科及びデザイン研究科の第19回修了制作展が、2月24日(火)～3月1日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻は、絵画研究、造形研究、同時代表現研究、美術文化研究の4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己の確立と、その表現方法の探究を教育・研究の目標として掲げています。会場には、現時点における

彼らの集大成としての自己表現の作品が展示されました。

デザイン研究科デザイン専攻は、学士課程でのデザイン教育を踏まえて、より専門的職能に携わるための知識と技能の習得を目指し、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人材の育成を目標にしています。研究領域は、ヴィジュアルデザイン研究、メディアデザイン研究、クラフトデザイン研究、3Dデザイン研究、ライフスタイルデザイン研究の5領域で、在籍専攻生の感性と専門分野の知識に裏付けられて表現された作品が展示されました。

期間中、作品が展示された会場では大勢の関係者が訪れて熱心に鑑賞していました。



1 2 絵画研究(日本画・洋画制作)、造形研究(彫刻)の作品  
3 4 同時代表現研究の作品  
5 3Dデザイン研究の作品  
6 メディアデザイン研究の作品  
7 クラフト研究の作品  
8 ヴィジュアル研究の作品

名古屋芸大グループ校特集

学校法人 名古屋自由学院  
滝子幼稚園

滝子幼稚園では、23年度から26年度にかけて、カリキュラムの見直しを図り課業「からだあそび」を保育の柱に戸外遊び・運動遊びに力を入れ、「運動好きな子どもを育てる」ことを目指して取り組んできました。近年滝子幼稚園の運動会は、テーマである「元氣・勇氣・本氣」の姿勢で意欲的に頑張る子どもたちの姿が輝いています。この運動会への充実した取り組みが、子どもたちの心と体を大きく成長させ、その後の生活やあそびにも大きな影響を与えます。どんなことにも意欲的で自分なりの目標を持って挑戦し、また、友だちと一緒に1つのことに向かい力を合わせて取り組むことに喜びを感じるようになります。子どもの意欲や目標に向かう姿勢が育つことで、その後の作品展、音楽会、生活発表会への取り組みも充実していきます。また冬の間、年

中・年長組が取り組む縄跳びも自分なりの目標に向かって挑戦することを楽しんでいます。前跳びや後ろ跳びばかりではなく、あや跳びや二重跳びにも挑戦しています。この4年間で運動能力もぐんぐん伸びています。3月に行う年長クラス対抗ドッチボール大会は白熱し、その真剣さや遅しさに感動します。年中組が憧れのまなざしで見つめ、ドッチボール大会を応援で盛り上げてくれます。

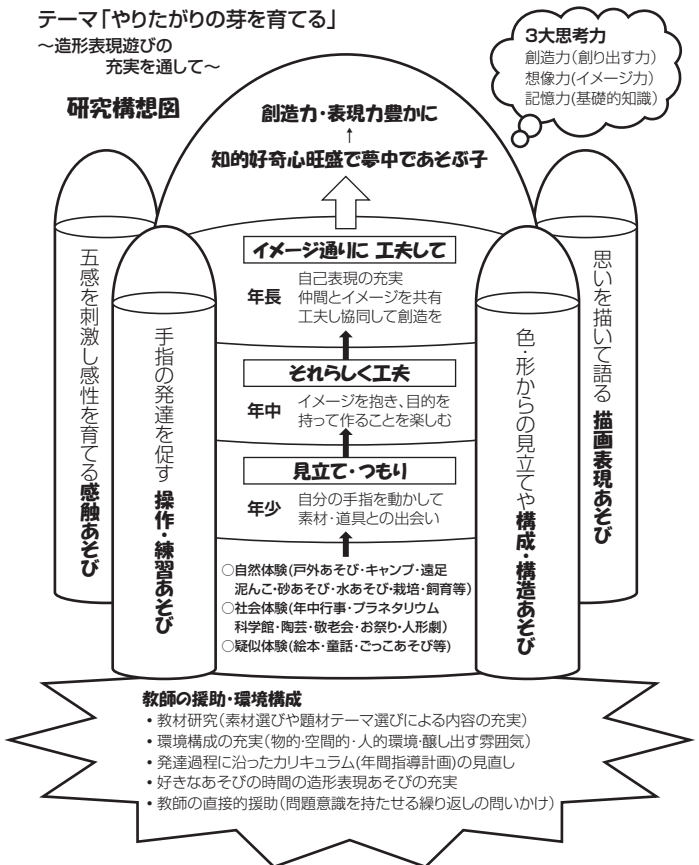
滝子幼稚園の園庭は、いつも活気に溢れ、夢中で体を動かして遊ぶ子どもたちの姿でいっぱいになり、ねらい通り運動好きの子どもが育ってきました。

そして、27年度からは「やりたがりの芽を育てる」ことを研究テーマに掲げ、創造力・表現力の豊かな子どもを育てることを目指して「造形表現あそび」の研究に取り組んでいく計画を立てています。

芸大や保専の先生方、よろしくご指導くださいますようお願い致します。

テーマ「やりたがりの芽を育てる」

～造形表現遊びの充実を通して～



村青年の家など社会教育機関の青年講座の講師を担当し、青年たちと一緒に常滑に行って陶芸に挑戦したり、毎回の「一言感想文」のカットをデザインしてもらったり、講座のテーマ・ソングを毎回歌ったり、歌集を作ったり、様々な生活に根ざした「芸術・文化」的要素を取り入れました。講座の核は、青年たちが自らの生活を見つめて綴る「生活史」(自分史)を仲間の中で学習することでした。

また、教員になってすぐに当時の名古屋自由学院短期大学の学生さんたちと障がい者ボランティアと一緒に参加しました。その障がい者青年学級

でも、絞り染の作家さんの手ほどきで有松・鳴海絞の絞り染体験をしたり、イーゼルを一人ひとり構えて思いおもいの絵を描いてみたり、プリントのカットを障がいを持った仲間みずからにデザインしてもらったり、身近な生活用品で「楽器」を作ってみなで演奏会をしたり、和太鼓や民舞にチャレンジしたりと、ここでも生活に根ざした「芸術・文化」的な要素を活動の核とし、学生・社会人・主婦・地域住民など様々なボランティアさんたちと一緒に活動しました。

現在、地域の仲間と和太鼓・民舞のサークルの活動をしています。結成23年目です。元気な、

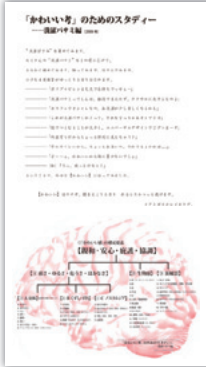


障がいを持った仲間・高齢の仲間・女性の仲間たちと一緒に取り組んでいます。

今後も、「活動の中に芸術・文化を取り入れる」から進んで「生活に根ざした芸術・文化」を追い求めていきたいと思っています。



洗濯バサミ（教員展）（2009）



私はもうこれ以上本質的な発展はないという意味で、デザインの袋小路に入ったものをしばしば愛おしいと思う。私にとって洗濯バサミも元々そうした存在だった。しかし、それが収集の対象となった理由は他にある。「人間のしわざ」という観点から世界を見ることは愉快だ。そして洗濯バサミはそんな人々の「しわざ」の発露の仕方を観察するテキストとしては格好な素材なのだ。洗濯バサミは私にさまざまな人の願い、戯れ、時に自慰行為が表される読み物だ。

# マスター ↑↓to アーティスト

【第28回】

〈 人と文化から  
生まれるかたち 〉



萩原 周 デザイン学科科長  
教授  
(はぎはら まこと)

- 1962年 奈良県生まれ
- 1985年 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業
- 1986～91年 武蔵野美術大学専任助手
- 1991～93年 ドイツ学術交流会(DAAD)給付留学生として  
ハノーファー大学建築学科工業デザイン研究所  
広場を中心に公共空間の調査と研究
- 1994年～ 東海大学、和光大学、武蔵野美術大学  
(特別講師)などで非常勤講師
- 1996～99年 愛知文教女子短期大学デザイン美術科講師
- 2000年 本学専任講師
- 2006年 准教授
- 2015年 教授

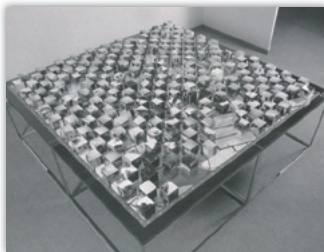
「僕は、作品というかたちで出すようなタイプでやってこなかった」 通例ならば、この誌面には作品の写真が多数並ぶことになる。しかし、今回は、見栄えのする画像は少なくなりそうだ。というのも、今回の主人公は、考えることを生業とする人であるからだ。「僕の作品は、論文ほどはいかない、エッセー的なものであるとか、ともかく、プロセスや仕組み、思考の仕方などを綴ったテキストというかたちが多いのかもしれない。思考そのものも文字をベースに成り立っているような気がします」

文章の書き方は、洋画家だった父親から学んだという。「親父は文学青年で、絵にもうるさかったですが、むしろ文章を書くこと、とにかく作文にうるさかったですね。作文を学校に持っていく前に、親父に添削されてなかなか持っていけないかった」 御父上は、自分と同じ芸術の道よりも、医者を目指して欲しいと考えていたようで勉学に厳しく、また、それに応えて、高校は県内有数の進学校へ進

んだ。進路に悩み出したのは、高校3年になってから。「医学部志望と模擬試験なんかでは書いていました。文系科目は良かったのですが、途中から理系の科目がだめになってきて、無理だなど。美術系にいかうと思った動機は、満員電車に乗らなくていい仕事に就きたい。不純な動機ですよ(笑)」 受験も迫った秋になり、父親に相談。本意ではなかったが、美大を受験することを理解してくれた。しかし、「おまえは、センスがない」ということで彫刻や絵画へ進むことは反対された。技術も伴っていなかった。それまでデッサンもやったことがなく、数ヶ月で受験を迎えるのだ。父親、高校の美術の先生にーからデッサンを習い、父親の知り合いであった武蔵野美術大学の先生などにも相談したりもした。そうしているうちに紹介されたのが武蔵野美術大学の基礎デザイン学科だった。考えることに重きを置く内容に、自分に適していると感じたのか魅力を感じ、進む道を決めた。目標が明確になると、遅れていたデッサン力を身につけるため一計を案じた。浪人

生が通う予備校に入れてもらい、浪人生が描く様子を観察した。「鉛筆で書く技術というのは、ものを見ていてももはや無理だと思って、描き方を見ていました」 絵画に限らず音楽でもどんな分野でも、芸術には「技術を磨く」という側面がある。付け焼き刃な方法は、技術を極めてこそ辿り着ける本質を遠ざけるという考え方がある。しかし、芸術は、思考と技術の両輪があって成り立つものである。デッサン力を身につけるため描き方を観察するという方法が、基礎デザインという学問の入り口になったということが面白い。

「大学に入って『基礎デザイン学科はデザイナーを必ずしも養成しません』といわれて面食らいましたよ。僕自身、何になればいいのか、基礎デザインとは何なのか、大学の間は実感のないままいたのかもしれない」 3年になる頃、友人宅へ遊びにいき、その部屋の本の量に圧倒されたことがあるという。「壁から足元から全部本でした。こいつ家ではこんなに本を読んで勉強しているんだと



### ワークショップ：「吉祥寺 都市のかたち」

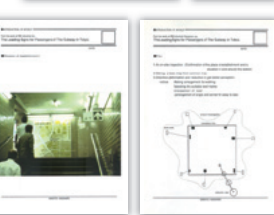
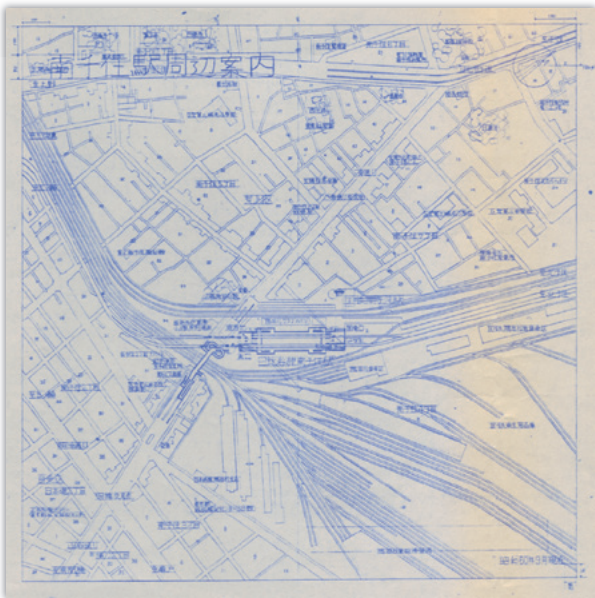
1989年に世界巡回展として開催された「現代デザインの水脈：ウルム造形大展展」と同時開催された関連ワークショップ：「吉祥寺 都市のかたち」。双方に、当時武蔵野美術大学助手として事務局、プレリサーチ実施に関わったことは、その後の私のデザイン観形成に大きく影響を与えた。昼夜ない作業の末、完成した「年表 バウハウスからウルムへ」が、展示会場の壁面いっぱいになるまで暗黒の宇宙にきらめく星々のように広がる様を見た時の感動は忘れられない。また、ワークショップのプレリサーチとして企画・実施した「積層としての環境」は、吉祥寺のまちを529個のフォトキューブとして捉える試みで、その実施・制作の困難さはもとより、最後の最後までその「意味」についてメンバー間で議論を交わしたことがこの制作が私に残した大きな財産のひとつだ。



### 携帯電話 基地局・中継局景観への視点 (2011 教員展)

豊田市の景観アドバイザーとして助言などにあたる傍らで、これに関連した調査研究の視点を紹介した。

### 地下鉄周辺地図



ドイツ学術交流会(DAAD)審査のために提出したレイノダストリアルデザイン事務所での仕事。地下鉄の駅にある周辺地図。駅周辺を視察し、実際には地図の範囲外にあるランドマークを違和感のないように地図を歪ませて取り込む。そうとは気付かせず利用者の感覚にマッチした地図を作り出す。

奈良県 高野山の麓で洋画家の息子として生まれる。進路に関しては紆余曲折の後、武蔵野美術大学に入学。基礎デザイン学科にて生涯師と仰ぐこととなる向井周太郎先生のゼミに所属。卒業後、6年間教務補助員、専任助手として武蔵野美術大学に勤務。この間、'89にウルム造形大学関連の展覧会・ワークショップの企画・運営・制作に関わる。また'85よりレイノダストリアルデザイン事務所(社長：赤瀬達三/現 黎デザイン 総合計画

研究所)に勤務し、営団地下鉄(現東京メトロ)のサインシステム、六本木アークヒルズのサイン計画等の制作に携わる。'88の夏季3ヶ月にわたり武蔵野美術大学からの給付による欧州研修に赴き、建築、公共空間を中心に英国はじめ7ヶ国を巡り、その際に東ドイツ(当時)デッサウのパウハウス校舎にて開催されたパウハウス展を訪れる。助手退任後、'91にドイツ学術交流会の給付留学生としてドイツ・

ハノーバー大学に留学し、工業デザイン研究所：ヘルベルト・リンデンガー教授(当時)のもとで欧州の公共空間の調査研究を行う。帰国後、2年間東海大学、和光大学、武蔵野美術大学、愛知文教女子短期大学、名古屋芸術大学にて非常勤講師、特別講師として勤務。'96より愛知文教女子短期大学の専任講師、'00にライフスタイルブロック開設、ファンデーション教育プログラム見直しに関わるべく名古屋芸術大学に専任講師として着任する。

思って。このままでは自分はだめだと思い、刺激を受けました」大学時代は、プロフィールにもあるようデザイン事務所アルバイトをし、鉄道などのサインシステム制作に関わっていた。大学を卒業するにあたり入社を促されもしたが、「一生涯、サインシステムをやるのは」と躊躇し断った。一つの領域に執着する決意がなかったともいえるが、自分がやる仕事ではないと感じ取っていたのだろう。

学生時代のゼミ、また助手になってからの師となる向井周太郎氏と出会いは大きなものだった。「かたち」を作ることがデザインであれば、その「かたち」はどうやって出来上がってきたかを探求する基礎デザインという



向井先生は穏やかに私の欠落や過ちをそれと悟られぬよう指摘し、そこからの道を示唆された。師は優しい口調で世界の「かたち」、「美」、「秩序」などについて語られた。デザインは領域を超える、いや領域を持たない、デザインが、もはやデザインで収まりきれぬ可能性を秘めた思考とまざりであることを私に時間をかけて今も語りかけてくれていると思う。



のお宅にお邪魔しても、新しさというものは全然感じられない。こういう社会や文化の中からモダンデザインというムーブメントが生まれてきた。このことが非常にショッ

クでしたね」「かたち」が生まれた背景を実際に確認する旅は、基礎デザインの実践の始まりといえる。

帰国後、いくつもの大学で講師を務め、さまざまなデザイン領域に携わってきた。一見すると、それぞれ関係ないことのように見えてしまうかもしれないが、領域を超え根本的なところで繋がっていることは、これまでやってきたことを俯瞰すれば明らかになる。そして、現在、力を注いでいる「土と人のデザインプロジェクト」は、人と地域を観察し、そこからもっとも必然性があり合理性のある「かたち」を構築するという基礎デザインの実践そのものといえる。作家は、生涯をかけて一つのテーマ、一つの作品を作ることを追い求めるものである。いくつもの作品を生み出しているように見えて、総括してみれば、それらはどれも習作だったとわかる時がある。萩原氏の多岐にわたる活動も、いずれもが互いに関連を持ち、一つの環に収束していくに違いあるまい。



### 2004 みのかも文化の森共催企画

ライフスタイルブロックでは《生活を観察し記録する》ことを全ての研究教育活動の核として捉え、学外でも実験的な試みを行っている。開設間もない2004年には、「みのかも文化の森」との共催企画として、フィールドワークを基にした観察・編集・展示「みのかもスタイル」、夏休みの親子ワークショップ【まちを探検しよう】を企画・開催した。(2004)



### 土と人のデザインプロジェクト (2012-2015)

デザインプロデューサー服部滋樹氏を迎えて実施された、大学とその周辺地域の価値を見つめ直し、評価し、編集し、提示する一連のプロジェクトは、地域コミュニティの新たな可能性を提示する試みであったと同時に、私にとっては、人と環境が分かち難く結ぶついていることを改めて意識化する機会であった。かつての欧州での公共空間研究の折、当初はその装飾的関心に偏っていたまなざしであったが、最終的に「公共空間の意味形成」を決定的にするのは「そこに住まってきた人々の世代を超えた営み」なのだ、という確信を得た記憶が、ここに来てまた強く甦ってくる。

## 出 B o o k s 版

教員著作(翻訳)の出版物のご紹介です。  
(編集期限までに報告されたもの)



■松實輝彦  
(名古屋芸術大学人間発達学部  
子ども発達学科准教授)  
『広告写真のモダニズム  
写真家・中山岩太と  
一九三〇年代』  
〔青弓社 2015年〕



■萩原雄一  
(名古屋芸術大学デザイン学部  
教養部会教授)  
『改訂 漱石の初恋』  
〔未知谷〕



■今村博文  
(元名古屋芸術大学職員・生涯学習講座講師・  
日本体育協会卓球上級指導員)  
『芸大・楽しいピンポン(卓球)《上達教本》』  
〔Amazon・デザインエッグ株〕



## 2015年度 オープンキャンパス日程

### 2015年

- 6月13日(土) 全学部  
10:00~16:00
- 7月18日(土) 人間発達学部  
10:00~13:30
- 7月19日(日) 美術学部・デザイン学部  
10:00~16:00
- 8月22日(土) 人間発達学部  
10:00~13:30
- 9月26日(土) 全学部  
10:00~16:00

### 2016年

- 3月 5日(土) 音楽学部・人間発達学部  
10:00~16:00

### 表紙の写真

木工場で卒業制作に励む学生と  
前技術員 守谷知洋さん

木工房についてのお話を伺い、実際に機械の操作や作業の様子を見学させていただきました。木工房常連?の学生たちに厳しくも優しく接している様子は、技術員というよりも叔父や歳の離れた兄のようであり、ほほえましく感じました。  
(2015年3月 木工房にて)



「名古屋芸大  
グループ通信」  
ウェブサイトを



## アート&デザインセンター 2015年度展覧会スケジュール(予定)

- 4/ 1(水)~ 4/15(水) 2014年度デザイン学部レヴュー選抜展
- 4/17(金)~ 4/22(水) ビギナーズチョイス-素描を楽しむ-
- 4/17(金)~ 4/22(水) なおこのふく みやこのふく
- 4/24(金)~ 4/29(水) 退ける空気
- 4/24(金)~ 4/29(水) 未来都市とディティール
- 4/24(金)~ 4/29(水) 武器展
- 5/ 8(金)~ 5/13(水) ADシネマ Presented by フィルムナウト
- 5/ 8(金)~ 5/13(水) 写真部『春展』
- 5/15(金)~ 5/20(水) 書道アート展(仮称)
- 5/15(金)~ 5/20(水) ハムック展(仮)
- 5/22(金)~ 5/27(水) 名古屋芸術大学美術・デザイン学部OB・OG展2015
- 5/29(金)~ 6/ 3(水) 創作折紙展
- 5/29(金)~ 6/ 3(水) 色糸~ゆらゆらの森~
- 5/29(金)~ 6/ 3(水) お絵描き会の為の展示『拝啓、私の中に存在するモノ(仮)』
- 5/29(金)~ 6/ 3(水) THE MEDAL COMPLEX
- 6/ 5(金)~ 6/10(水) 『AFTER DENMARK2015;中田由絵×長谷川直美』展
- 6/ 5(金)~ 6/10(水) すべての子供たちのために(仮)
- 6/12(金)~ 6/17(水) 名古屋芸術大学 教員展
- 6/19(金)~ 6/24(水) peace nine 2015
- 6/19(金)~ 6/24(水) アートクリエイターコース・コレクション展(仮称)
- 6/26(金)~ 7/ 1(水) 名古屋芸術大学大学院 洋画制作2015
- 7/ 3(金)~ 7/ 8(水) プレ ソツテン
- 7/10(金)~ 7/15(水) 2015年度前期留学生作品展
- 7/17(金)~ 7/22(水) スペースデザインコース展(くうねるところにすむところ展)
- 7/17(金)~ 7/22(水) 大学院 コミュニケーションアートアンドデザイン演習発表
- 7/24(金)~ 8/ 5(水) 『素材』展
- 9/18(金)~ 9/30(水) 2015年度アート&デザインセンター企画展  
デザイン学部特別客員教授展(仮称)
- 10/ 2(金)~10/ 7(水) 彫刻展
- 10/ 9(金)~10/14(水) 洋画1コース3・4年展
- 10/16(金)~10/28(水) 2015年度アート&デザインセンター企画展  
『佐喜真美術館のスタンス~丸木位里・俊・ケテコルヴィッツを中心に』展(仮称)
- 10/30(金)~11/ 4(水) アー!ラジオ&大学院同時代表現研究企画
- 11/ 6(金)~11/11(水) 遭遇するドローイング・ハノーファー&名古屋2015
- 11/13(金)~11/18(水) MCDデパートメント
- 11/20(金)~11/25(水) 『幼稚園児たちのゲイジツ 2015』展
- 11/20(金)~11/25(水) 『Handhospeace:医療と美術』展
- 11/27(金)~12/ 2(水) 洋画2コース 2年生選抜展(仮称)
- 12/ 4(金)~12/ 9(水) メディアデザインコース展
- 12/11(金)~12/16(水) こどもの空間 絵本と椅子
- 12/11(金)~12/16(水) 2015年度後期留学生作品展
- 12/18(金)~12/23(水) 日本画3年作品展
- 12/18(金)~12/23(水) 洋画2人展(仮称)
- 12/18(金)~12/23(水) 『博物館とアートの出会い』(仮称)
- 1/ 8(金)~ 1/13(水) ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)
- 1/15(金)~ 1/20(水) 美術学部コース展
- 3/ 1(火)~ 3/ 6(日) 第43回名古屋芸術大学卒業制作展



※会期・内容に変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。  
〔入場無料〕どなたでもご覧いただけます。  
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325

Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)  
日曜・祝祭日原則休館

発行：名古屋芸術大学  
企画・編集：全学広報誌編集委員会  
デザイン・協力：くまな工房一社  
印刷：弊クイックス  
発行日：2015年4月24日

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 広報企画部  
〒481-8502  
愛知県北名古屋市鹿之庄古井281番地  
電話 0568-24-0359  
FAX 0568-24-0369  
E-mail : grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を  
再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移動や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。